



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および
「3.11 からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

2013.10.20

「3.11 からの出発」活動のご報告 No.11

松岡享子

——陸前高田市立図書館、再建への希望

2013年7月21日から23日にかけて、小関知子理事、内田直子事務局担当とともに陸前高田市を訪問しました。わたしにとっては、8度目の訪問になります。今回の訪問には、大きな目的が二つありました。ひとつは、4月に新しく小友小学校に着任された校長先生、副校長先生にお目にかかって、これまでの館の取組みをお話し、今後の活動にご理解、ご協力をいただくようお願いすること。もうひとつは、市長、副市長、教育委員会関係者の方々にお会いして、市立図書館再建の見通しについて、お話を伺うこと、でした。

震災直後の2011年夏から、子どもたちへお話しと本を届ける活動をつづけてきた小友小学校では、本年4月、先生方の異動があり、これまでわたしどもを快く受け入れ、ご協力くださっていた校長先生がご退任、副校長先生が他校へ異動されました。さらに、読書活動担当の先生も交替しました。これまでのことをご理解くださっている諸先生方がいちどに交替しておしまいになったのは、わたしたちを少々不安にさせました。この先、できれば学校図書館の整備などもふくめて、学校側とさらに緊密に協力して活動をすすめたいと願っていたので、新しい校長先生にそれを受け入れていただけるかどうか心配だったからです。でも、それは杞憂に終わりました。新しい先生方とお話ししてご理解をいただき、今後とも、小友小学校で従来通りの活動をつづけていけることになりました。かねて申し上げているように、わたしどもの活動は、少なくとも震災時に1年生だった子どもたちが6年生を卒業するまでは継続したいと希望していますので、その見通しがついたことで、安堵いたしました。

震災後2年経ち、学校現場も、平常に戻りつつあります。そうなるに学習が遅れを出さないため、授業に集中しなければなりませんから、カリキュラム外の、わたしどもの活動のために、授業時間を割くことは、ますますむづかしくなると予想されます。わたしどもは、当初から、わたしたちの学校訪問が、一時的な“慰問活動”になることを極力避けたいと願ってきました。今後も、学校側とよく連絡をとって、わたしたちの訪問が、本来の学習活動にうまく織り込まれて、先生方にも助けになり、子どもたちにもたのしみられ、読書への刺激になるように努めたいと思っています。

子どもたちには、今回は全校いちどにお話をしました。「愛蔵版おはなしのろうそく」の紹介をかねて、「ろうそく」からお話を三つ選びました。新1年生は12名。予想したより大勢でうれしく思いました。2年生から上の子どもたちは、もうわたしたちとも顔なじみ、お話にもなれて、たのしみにしてくれそうです。廊下で出会っても、元気のよい挨拶と引っしよに笑顔を見せてくれます。

運動場がきれいに整備されていること、これまで中学が使っていた1階部分が改装中であること、瓦礫の撤去があらかた終わって、その先にひろがる景色がおだやかなものになっていること等、行くたびに学校をとりまく環境も少しずつよくなってきています。

二つめの目的である市長との面談は、「ちいさいおうち」の設置に多大のご支援をいただいた公益財



団法人東日本大震災復興支援財団の荒井専務理事のご尽力で実現しました。短い時間ではありましたが、市長、副市長をはじめ、教育委員会次長など、市の幹部のみなさま方と直接お話しする機会が与えられて、たいへん有益でした。いちばん大きかったのは、市長の図書館に対する関心が高く、再建計画が、予想よりずっと早くはじまるかもしれないとわかったことです。被害があまりにも甚大なので、わたしは、市が図書館の再建に手をつけるのは、何年も先のことになるだろうと思っていました。けれども、お話によると、市としては、市庁舎よりも先に、図書館、体育館、文化センターといった、市民が利用する施設をできるだけ早く再建したい意向だとのことでした。

もちろん、今の時点では、具体的な計画にはいる段階ではありませんが、従来からなんども述べてきたように、わたしたちは、市と民間の協力体制ができて、「ちいさいおうち」が、市立図書館の児童室へ融合されればどんなにいいかと願ってきました。その夢を実現させるためには、再建計画の初期の段階から、関心をもって関わっていくことが大事です。せつかくの新しい図書館。住民の人みんなにとってよいものになるように、わたしたちとしてもできるだけ力を出したいと思います。

今回の訪問で、予想外の収穫だったのは、大船渡の読書ボランティアグループ「おはなしころりん」の事務所を訪問し、メンバーの方々とお会いできたことです。「おはなしころりん」では、平成24年度に、仮設住宅の集会所や、地区公民館など、市内30数ヵ所を会場に、「やってみっべし読み聞かせ」という巡回講座を行ったそうです。参加者延1104名。『おおきなかぶ』、『やさいのおなか』、『これはのみのぴこ』といった絵本や、地域の昔話を紙芝居にしたものなどを使って、一般の人たちに読み聞かせを実際に体験してもらうという内容です。もともとは、子どもたちへの読み聞かせを広めることを意図していたのだと思いますが、それだけではなく、お年寄りの参加者が新しい生き甲斐を見つける、参加者同士の仲間ができる、地域のつながりが強まる等の効果が多数報告され、大成功だったようです。講座の実際を生き生きと伝える、充実した内容の報告書をいただき、その全容を知ることができました。

「おはなしころりん」は、このほかにも日常的な活動として、学校訪問や、本の貸し出しを行っています。ボランティアとして活動する人も、サービスを受ける人も、ともにこの土地の住民であり、さらには同じ被災者であることが、この団体の強みであると感じました。これから先、しっかりと地元を根をおろし、さらに成長して、永続的に活動をつづけていこうと予想され、たいそう心強く思いました。

このほかにも、今回の旅では、これも東日本大震災復興支援財団の荒井専務理事のご紹介で、この地の復興のために自分にできることを自分で見つけて、実質的な働きをしている何人かの若い人たちに会うことができました。政治や、行政のする事業には、時間、予算、考え方の柔軟性などの点で問題が多いように思えてなりません。それとは別に、人と人とのつながりをもとに、必要なときに、必要なところに、必要な助けが届くように、黙々と、そして喜々として働いている若い人たちがいることを知って頼もしく思いました。つぎの陸前高田訪問は、11月に予定されています。

(2013年10月10日記)

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行/郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館

*報告のバックナンバーは、ホームページでもお読みいただけます。